

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290700137		
法人名	株堀企画		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	青森県三沢市古間木二丁目181-13		
自己評価作成日	令和5年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な場所にあり、自然と緑に囲まれ、昼夜とも静かな環境でゆっくりと穏やかな暮らしを送れます。利用者様やご家族、スタッフ皆の笑顔が絶えないグループホームを目指しております。普通の暮らしを応援するため、洗濯物を畳んでいただいたり、食器拭きやモップ掛け等を毎日お願いしており、一人ひとりの状態に応じた支援を行っております。また、体験入居も受け付けています。地域の障害者就労支援施設や介護事業所とも交流を図っており、皆様方から信頼される事業所となるよう、サービスの向上に努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から地域住民や近隣施設との交流を深めてきた。また、コロナ禍でも運営推進会議はほぼ対面式で行い、身体拘束委員会としての役割も担い、議事録を家族全員に配布して理解を促す努力をしている。
職員は利用者に合わせてゆっくりと話をし、思いを引き出しながら、小さな変化や意向を察知しようと取り組んでおり、利用者が自分らしく、穏やかな暮らしを笑顔で続けていけるよう、理念を反映させたサービス提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示しており、家族にもわかりやすく、職員も日々確認しながら実践するように努めている。	設立当初の理念を見直し、利用者が自分らしく、穏やかな暮らしを笑顔で続けていけるようにとの思いを込めて、新しい理念を掲げている。理念は玄関に掲示する等して、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の際、町内会長様や地域の民生委員の方々と交流を図っている。また、馴染みの美容師さんをお願いし、施設内で散髪をしていただいたり、近隣の農家の方に敷地内の畑を無償で貸している。	町内会に加入している他、利用者との散歩時等、近隣住民と挨拶を交わしている。また、地域の商店を利用したり、近隣施設のバザーに出かける等、日頃から地域との関わりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域役員に運営推進会議に参加していただき、認知症への対応等、情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を開き、運営の報告や意見交換を行い、サービスの向上に努めている。新型コロナウイルスが5類になったこともあり、感染状況を見ながらの開催としている。民生委員の方から、地域の高齢者の情報をいただくこともある。	運営推進会議ではホームの行事の他、職員研修や防災訓練等への取り組み状況を報告し、メンバーから意見を引き出せるように努めている。また、全家族に議事録を郵送し、理解を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点や確認事項等の情報提供を受けたり、アドバイスをいただいている。また、運営推進会議では報告や情報交換を行い、広報誌を配布している。コロナ禍時は施設の取り組みに関する情報等をもらい、参考にしてきた。	市の担当課職員が運営推進会議のメンバーとして参加しており、ホームの実態を理解していただいている。また、行政からは様々な情報提供がある他、不明な事等があれば助言をいただき、課題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成している。また、見守りや居室変更をする等の工夫で、拘束をしなくても良い方法を、スタッフ会議や申し送り時に検討し、実践している。玄関は防犯のため、夜間のみ施錠している。運営推進会議で、研修・勉強会への参加状況やケア状況を報告している。	指針を作成している他、職員は研修等を通じて身体拘束の内容や弊害について理解しており、2ヶ月毎の運営推進会議の場で、身体拘束適正化を目指す姿勢や取り組みを報告している。日中は見守りにより無断外出に備えながら、不穏な時は一緒に周辺を散歩する等、支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成している。今後も外部研修への参加や勉強会を行い、全職員が虐待防止を念頭においてケアを提供していく。運営推進会議で、研修・勉強会への参加状況やケア状況を報告している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している利用者がいる。利用に向けての制度の紹介や有益となる情報提供は管理者が行っている。研修に参加して、職員は制度の必要性を理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は十分な説明を心がけ、利用者や家族に不安なく入居していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見等はその都度確認し、反映するように努めている。家族には来所時に要望を聞く機会を設けている。	職員は日頃から利用者に声をかけたり、会話することは勿論、反応や言葉の変化を見逃さず、意見等の把握に努めている。また、毎月担当職員からの手紙で利用者の暮らしぶり等を報告し、家族等が意見を出しやすいようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日々の申し送りで、職員の意見や提案を確認するようにしている。	月1回スタッフ会議を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。また、日頃から、気がついた事や意見等があれば、職員同士が気軽に話し合える環境であり、申し送りノートでも気づき等をまとめ、全職員で情報共有をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に沿った労務管理を行うように心がけている。また、職員の希望を聞き、個人の事情に応じた配慮をしている。勤務表作成時は、全職員に希望休・有休を確認し、業務に支障のない範囲で対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量に合った外部研修を計画し、スキルアップにつなげられる機会を設けている。コロナ禍以降はオンラインでの研修が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以来、電話で情報交換することが多いが、予防対策を取りながら、他施設への訪問等をすることもあり、関係構築はできている。外部研修等への参加はまだしていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後間もない時には声がけや関わりを多くして、不安のない対応をするように努めている。また、担当職員をつけることで、早めの気づきと対応に結びついている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と家族に施設を見学していただき、家族が抱えている不安や要望に耳を傾け、まめに連絡を取りながら、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等からの聞き取りで本人の状態を把握し、本人に合った支援を提供できるようにしている。必要により専門医受診に結びつけることで、穏やかに過ごせることも多いので、早期に見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の持っている残存能力を発揮することで、満足感や達成感、存在意義を感じながら、張り合いを持って過ごしていただけるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には感染対策を取りながらではあるが、自由に面会していただいている。また、利用料請求時には、管理者や担当者からの短いお手紙を同封し、日頃の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で今はできていないが、以前は家族に協力をいただき、自宅に帰ったり、外食等に出かけていた。現在は面会は感染対策を取りながらできるようになり、自由に来訪していただいている。	アセスメントの作成の他、利用者の生活圏内の地図を見ながら、回想法によって馴染みの場所や出来事等を把握している。また、電話や手紙のやり取りをお手伝いし、利用者がこれまで大切にしてきた関わりを継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりに個性があり、利用者間の関係が難しい場面もあるが、お手伝い等で協調性を持っていただいたり、職員が間に入り、気軽に話ができる雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去することになった時には、受け入れ先の確保等の相談や支援をしている。また、家族が他施設の知識がないことも多いため、情報提供もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは会話できる時間を積極的に作り、本人の希望や思いを伺い、意向の把握に努めている。意思表示が難しい方は、素振りや表情等で把握するように努めており、家族からも情報を聞くようにしている。	利用者の地元の写真を見たり、興味を示してくれるような話題を提供する等、積極的に利用者とは会話する時間を設け、思いや意向の把握に努めている。また、日々のコミュニケーションを通じて、何気ない仕草や行動からも、利用者の思いや意向を察知しようと取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、事前に本人や家族から、それまでの日々の暮らし方やサービス状況等の聞き取りをしている。入居前には必ず面接に伺い、多くの情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送りにて、利用者の状況等の情報を共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、スタッフ、医師や関係者と、話し合いや相談を行い、日々の様子を基に、その方にとって今何が必要か、また、楽しく、苦痛がないかを考えながら、介護計画を作成している。	利用者の意見を聞き取った際は記録し、会議等で職員が意見交換を行った上、利用者本位の個別具体的な介護計画を作成している。介護計画は長期1年、短期6ヶ月と実施期間を明記しており、状態の変化等があれば、都度見直しを行うこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や職員の対応を記録し、小さな気づきを見逃がさないようにしながら、職員間で情報を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単発・突発的な希望にも、可能な範囲で対応はできている。急な時は事故に結びつきやすいので、リスク予防をした上で、早め早めに対応し、利用者には不安を与えることなく、気持ちに添えるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近くの地元から入居されている方は、地域資源を活用することもあるが、遠方の方は地域資源から遠ざかってしまっている現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医は変更せず、今までの生活を継続できるようにしているが、グループホームの特性から、専門医への受診になることもある。	利用者のこれまでの受療状況を把握し、希望する医療機関を受診できるように支援している。また、週1回の訪問看護の体制がある他、認知症専門医や皮膚科、歯科等の受診も支援する等、利用者が適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を取っている。週1回の健康観察時、利用者毎の状況に応じたアドバイスをいただいている。また、電話相談や緊急訪問、必要時に医療保険での訪問にも対応してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には時々電話をしたり、病棟看護師に会って状況確認をしている。また、日頃から、医療機関との信頼関係構築に向けて努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点で、終末期に対する(治療・延命措置を含め)家族の希望を聞いている。また、施設としてできる内容の説明も行っている。主治医の訪問診療や訪問看護の利用可能な体制は整えており、重度化への対策はできている。	利用者が重度化した場合や終末期の対応について、指針を示してホームの方針を明確にしている。また、訪問看護ステーションとの医療連携体制を整えている他、年1回、訪問看護師を講師に招き、勉強会も開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを基に対応している。利用者毎の連絡・対応の手順をわかりやすい場所に置き、迅速に対処できるようにしていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染予防から、消防の立合いなしで、年2回避難訓練を行っている。また、町内会長を通じて、近隣住民にも協力を得られるよう、声かけをいただいている。万が一に備え、防災備蓄倉庫を設置しており、定期的に整備している。	年2回、避難訓練を実施しており、町内会を通じて、地域への協力依頼も行っている。非常口の外にはスロープがあり、敷地内の倉庫には食料や飲料水の他、ストーブやコンロ、簡易トイレ、発電機等も用意し、リストを作成して賞味期限等を定期的にチェックしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴の把握や家族からの聞き取りを参考にし、本人の人格を尊重した関わりや、言葉かけが心がけている。プライバシーや個人情報の取り扱いに配慮している。	個人情報の取り扱いについて、職員研修でも取り上げて理解を深め、職員自らのケア場面を振り返る機会としている。また、職員は利用者一人ひとりに合わせ、同じ目線でゆっくりと傾聴し、穏やかに向き合うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に利用者が気兼ねなく話せる雰囲気作りに努め、意思決定ができるよう、ゆっくり傾聴し、意見を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、無理なく、楽しく、ゆとりを持った過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや希望を聞きながら服装選びをしたり、定期的な訪問美容師の来所時も、それぞれの要望を聞きながら、散髪や整髪をしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやカット等を手伝っていただいたり、敷地内の畑で収穫した作物を食事にし出した時は、それを話題に話が盛り上がっている。旬の食材を取り入れ、利用者と職員と一緒に楽しく食事をし、お好み焼き行事の前はたくさんのキャベツを切りながら、楽しみにしている。	利用者が苦手な物には代替品を提供している他、敷地内の畑で採れた野菜を食材にしたり、お好み焼きやバーベキュー等の行事を企画して、利用者が食事を楽しめるように取り組んでいる。また、職員も一緒に同じ食事を摂り、会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録に残し、特に暑かった今夏は利用者一人ひとりの体調を見ながら、援助を行っている。また、入居前の嗜好把握で、提供している食事形態や量も利用者に合わせ、無理や事故のないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは個々の能力に合わせ、声がけ・見守り・介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を活用して事前誘導を行い、失禁予防に努めている。一人ひとりのパターンを把握しながら、オムツからリハパン、リハパンから布パンツへ変わってきた利用者もあり、個々に対応できている。皮膚トラブルにも留意している。	排泄パターンに応じた事前誘導と排泄確認を適切に行い、失禁を減らすケアを実践している。また、ホームでは常時オムツの方がいない状態を維持し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳・ヨーグルトの提供や水分摂取を促し、体操や運動等で自然排便ができるよう取り組んでいる。必要に応じて、主治医の指示のもと、下剤を適切に服用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の体調不良や入浴拒否があった場合は、曜日を変更している。	利用者の好みの湯加減等を把握し、基本的に週2回は入浴できるように支援している。また、毎日の足浴が習慣となっている方にも個別に対応している他、入浴を拒否する場合は入浴日を変更する等、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後の安静や午睡等、一人ひとりの生活のリズムに合わせた休息や睡眠を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬剤情報を保管し、職員が把握しやすいようにしている。また、用法・用量の変更があった場合は、申し送りノート等を活用し、情報を共有している。出入りの薬剤師からもアドバイスをもらいながら、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動や嗜好等は、今までの生活に近い支援ができるように心がけている。また、家事等もそれぞれの力量に合わせ、他利用者とお話や協力をしながら行える環境を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍前程ではないが、花見や紅葉見学、ドライブ等、少しずつ外出行事を行っている。また、お天気や体調・希望を考慮しながら、近くへ散歩に行っている。	天気の良い日は近隣を散歩したり、玄関脇のベンチでおやつを食べる等、できる限り戸外に出る機会を確保している。また、桜や紅葉見物のドライブを企画したり、敷地内でスイカ割りや流しそうめん、バーベキュー等を行う等、利用者の楽しみや気分転換となるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している	金銭は事務所内の鍵付き金庫で保管している。個人個人の預り金で受診・お薬、理美容の支払いや利用者の欲しい物を購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお預かりしている利用者もいるが、時々声がけをして、電話をかける手伝いをしている。また、利用者宛のお荷物が届いた時等は、本人よりのお礼や、職員からは近況報告の電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節を感じる創作物を飾ったり、行事写真を掲示している。気温や湿度を確認し、必要に応じて、窓の開閉やエアコン・空気清浄機等を使用している。また、カーテンにより採光の調整を行っている。	床暖やエアコンを完備している他、空気清浄機や加湿器、温・湿度計の使用により、快適な環境を保っている。また、共有スペースの調度品は家庭的で、利用者が寛げる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がリラックスできるよう、ソファを設置している。気の合う利用者が隣同士に座り、話ができる環境作りを行っている。要望により居室でも過ごせるよう、配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、家族の写真等を準備していただき、できるだけ居心地の良い空間となるように努めている。	入居時に、利用者の愛用品や馴染みの物を持ち込んでいただいている。また、花を飾りたいという要望には、話し合いの上、水の入れ替え等も不要で衛生面も安心な造花の花瓶を飾る等、できる限り利用者の希望を叶えながら、居心地の良い居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには手すりを設置し、施設内はバリアフリーだが、歩行が不安定な利用者の安全に配慮して、見守りや必要に応じて一部介助、車椅子での介助を行っている。また、移動以外の部分についても、危険予防のための物品を購入したり、工夫をしている。		